

9.7GHz 帯高性能型の検討課題

東芝インフラシステムズ株式会社

1. 検討課題の分類

気象レーダーを便宜的に汎用型と高性能型に分けているが、空中線利得等の一部の諸元以外すなわちスペクトラムマスクや測定法等は技術的条件に差異を設ける合理的な理由はないと考える。

表 1 に 9.7GHz 帯気象レーダーで検討すべき課題について、それが汎用型と高性能型共通の課題なのか、それぞれ別々に検討すべき課題なのかの分類を示す。沿岸監視レーダーと波高測定用レーダーとの共用検討については、汎用型の割当チャンネルが重ならなければ現時点では高性能型のみの課題と位置付けられる。

表 1 9.7GHz 帯気象レーダーの検討課題の分類

	検討事項	共通項目	種別毎
諸元検討	周波数の許容偏差	○	
	占有周波数帯幅の許容値	○	
	空中線電力の許容値		○
	電波の型式 (P0N、Q0N、V0N)	○	
	短パルスと長パルスの周波数離調	○	
	サイドローブ減衰		○
	不要発射の強度の許容値	○	
	スペクトラムマスク	○	
	測定法	○	
共用検討	気象レーダー間の共用検討	○	
	CS 衛星放送受信設備	○	
	沿岸監視レーダー		○
	波高測定用レーダー		○

2. 検討の進め方

汎用型レーダー整備の緊急性を考慮し、汎用型と高性能型の種別毎に異なる項目については、汎用型の検討を優先的に進める。共通の項目については、これまでの議論を踏まえ、関係者が最小限で合意できるレベルにとどめることで高性能型の検討と切り離して進めることが適当と考える。

共通項目については、高性能型と汎用型の両方を対象に 9.7GHz 帯気象レーダーの技術的条件を検討し、これが制度化された以降に設置される汎用型レーダーはこれに従うことを前提条件として、汎用型の検討を切り離して進めることが適当と考える。